

保護者の方へ

日頃から、登下校時に児童等の安全な通行のため、交差点等での誘導にご協力をいただき誠にありがとうございます。

横断の誘導にご利用いただいている「横断旗」の使い方をまとめました。

児童と誘導する皆様の安全を守るために、ご活用いただければと思います。



交通安全キャラクター
ネコの「ルールちゃん」



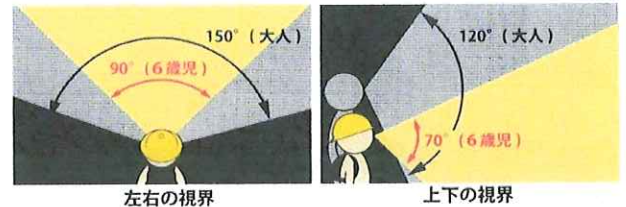
交通安全キャラクター
アライグマの「まもるくん」

児童の交通事故の多くは
登下校中のものであり、
周囲の大人のサポートで
未然に防ぐことができます。

児童は学年があがるにつれ、交通状況の理解度が向上していきますが、最初から理解しているわけではありません。
教えられて初めて、信号の意味や道路のしくみを理解します。

児童の特性

児童は、図のように大人よりも視野がせまく、目の高さも低いいため、**大人が見えている危険が児童には見えていないことが多いのです。**

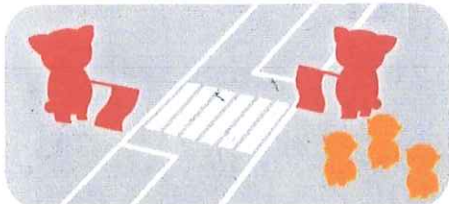


児童の発達段階によって危険予測の能力や危険回避能力には差があることを理解してあげることが大切です。

交通量が多く見通しの悪い道路や、道幅がせまく信号がない道路などは特に、保護者の方々の見守りをお願いします。

はじめに…

誘導者の立つ位置



歩行者や自転車の通行の妨げになる場所や、看板や電柱の陰になる場所を避けて、**自動車からよく見える位置**に立ちましょう。**道路には出ないように**しましょう。



時速40Kmで走る自動車が止まるには、約22mの距離が必要とされています。
横断旗を上げて自動車に合図するときは、**自動車が止まるために十分な距離**があることを確認しましょう。

横断旗の使い方

車に止まってもらうとき



1

左右の安全を確かめ、



2

旗をとつぜん道路に出さず、**いったん頭上に上げて**ドライバーに合図します。



3

左手を使って、児童が飛び出さないように防ぎます。

旗をとつぜん道路に出しても、車は急に止まれません！

■横断旗の使い方

児童を横断させるとき



1

自動車が止まってくれたら、左右の安全をもう一度確かめます。

2

旗を道路に出して、児童を渡らせます。



すり抜けてくる自転車やバイクに注意！

3

横断するときには、児童に手を上げるように指導をお願いします。



児童が横断し終わったら

1

児童が渡りきったら、左手で横断歩道をふさぎ、後からくる児童を止めます。



2

とつぜん旗を戻すと児童にぶつかる恐れがあるので、旗を一度頭上に上げてから元に戻します。



児童に旗をぶつけないように注意！



■注意すること

自分の身も守る



車道には出ないことが原則です。やむを得ず車道に出る場合は、**自動車の脇を通り抜けてくるバイクや自転車**に十分注意しましょう。

感謝の気持ちを持つ



朝の出勤時間は運転手にとっても貴重な時間です。協力してくれた運転手に、会釈するなどの感謝の気持ちを伝えましょう。

自動車に指示をしない



横断旗には自動車を止める強制力はありません。運転手に発進の指示をすることもやめましょう。

大型車は止めない



大型車の後続車が前方を確認できずに衝突したり、横断中の児童に気付かずに大型車を追い越して事故につながる可能性があります。**大型車を止めることは避けましょう。**